|  |  |
| --- | --- |
| 会議の結果 | |
| 件　　　名 | 令和３年度田辺市社会教育委員会議　第２回定例会 |
| 日　　　時 | 令和３年７月13日（火曜日）　　午前10時00分～午前11時40分 |
| 場　　　所 | 田辺市文化交流センターたなべる　２階大会議室 |
| 出　席　者 | ○社会教育委員  出席者11名：　稲垣委員、尾崎副議長、加藤委員、小山委員、近藤委員、坂本委員、  佐久間委員、砂野委員、中根委員、西川委員、松場議長  欠席者２名：　九鬼委員、柳川委員  ○事務局６名：　佐武教育長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長、尾﨑公民館係長、  遠山公民館係主査、澤本生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第29回文協フェスティバルの開催について

（２）南方熊楠顕彰館　７～８月の行事予定について

（３）紀の国わかやま文化祭2021について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。質疑応答における委員からの発言はなかった。

４．協議

（１）生涯学習推進計画素案検討部会について、事務局より会議結果報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ａ委員：その他のところに、「田辺市教育委員会が運営し」とありますが、計画を作った時と、計画を

進めていく事務方の担当は異動で変わっていますよね。その辺でおそらくご苦労があるかと思

いますが、その辺りは大丈夫なんでしょうか。

　事務局：今回この取組は、生涯学習推進計画のための現況把握ということで、アンケートとシンポジウ

ムを計画しております。市役所ですので、もちろん人事異動はございまして、計画の策定時と、

その後担当は変わっていくもので、どの業務もそうなりますので、計画づくりにおいても、そ

ういった形になります。

Ｂ委員：アンケートのことで思ったのが、調査の対象が1,900人、無作為に抽出した市民と、社会教育

施設の利用者というのは、もちろんかぶらない形で選ぶということなんですよね。

　事務局：アンケートにつきましては先ほどご説明いたしましたとおり、無作為抽出の分が半分と、施設

の利用者の方が半分ということで、確実にこの方に郵送されているというのは施設の者にはわ

かりませんので、絶対ということはないと思うのですが、一度アンケートを回答された方が、

再度アンケートを回答するということはあまり想定されないんですけれども、無作為のみでい

くと、アンケートの回収率がどうしても低くなり、たくさん意見をいただくことができないと

いう部分もありますので、約半分については施設の利用者にも依頼することにしています。ま

た、インターネットでも回答できるようにしていく予定です。施設等での配付は声掛けにより

依頼するものなので、そこで「郵送で回答されている方は回答不要です」といった声掛けは可

能だと思いますので、そういったことはやっていけるかなと思います。

Ｃ委員：アンケート内容に関して、何か参考にするベースになるものはあるんでしょうか。

　事務局：アンケート調査につきましては、15年前の第一次生涯学習推進計画の策定時のものがございま

して、それと今回のアンケートと、全く一緒ということはないですが、ある程度は変えつつ、

15年前にはなかった問題であるとか、現状に即した問いかけという部分もいれていきたいなと

考えておりまして、本日、計画策定部会に所属している委員の皆様には、今作った原案をお渡

ししておりまして、一週間ほどの期間でチェックしていただいて、それにご意見を頂いて、そ

れから最終のものを作り上げていくという形で考えております。

Ｃ委員：せっかくアンケートをご記入いただくので、コロナに関して皆さんのご意見を聞けるようなこ

とがあれば、今後またそういうことがあった場合に、少し参考になるのかなと思いますので、

具体的な案はないんですけれども、そういったところも併せてお願いできればなと思います。

（２）人材育成事業企画部会について、会議結果報告と併せて令和３年度人材育成事業開催要項（案）の

説明を行った。

協議の結果、令和３年度人材育成事業開催要項（案）が承認された。協議内容は以下のとおり。

【質疑応答・主な意見】

Ｄ委員：受講対象者が中学生以上となっているんですけれども、今までに、講座やシンポジウムで、中

学生の参加はどれくらいしているのかというのと、高校出張講座ということで、内容が、田辺

で働いている魅力ある人を紹介してもらって、ということで、中学校でもキャリア教育という

ことで、職場体験学習とかしているんですけれども、なかなかコロナの影響で、そういうこと

が実施できないような状況でもあります。こういう内容を聞きながら、中学生もこういうの聞

けたらいいなというようなことも素直に思ったので、そういう余地があるかと思ったんですけ

れども。

　事務局：これまで、中学生は受講対象者にさせていただいているんですけれども、実際に参加者はなか

ったかと思います。ただ、できるだけ若い人に聞いていただきたいという部分もあって、会議

の中で、中学生以上という形にしたらいいんじゃないかということで、これまで中学生以上を

対象として実施してきました。ですので、中学校への出張講座も、検討していけるものだと思

います。高校出張講座については、なかなか募集をかけても中学生や高校生に来てもらえない

といったところで、じゃあこちらから高校の授業や部活動の場に出向いて講座をしよう、とい

う試みとして、平成31年度の人材育成講座として実施をしました。今後の講座を検討していく

上で、例えば来年度の人材育成事業を企画部会で検討する際に、今いただいたご意見について

も検討した上で内容を作り上げていきますので、中学校出張講座の実施も余地としては充分に

あるかと思います。

Ｅ委員：企画部会で出た意見の中に、出張という形で行くのは難しくても、リモートという形でしても

いいんじゃないかという案も出ていましたので、補足です。

　教育長：Ｄ委員からいただいた、中学生もという意見には私も賛成で、高校生に限ってというものにし

ないで、中学生に対しても出張講座してもらえたらなと思います。今、コロナの影響もあった

かとは思うんですが、色んな学校が動き出しています。学校の勉強以外に、自分たちも何か意

識して、自らが動いて作っていきたいなという気持ちを、中学生は持っているので、これから

にもつながっていくと思いますし。市役所が実施している市民講座、一般の方々が、教育とか

福祉とか、子供たちの前で話をしてくれる、一般の方たちに向けての市民講座だったと思うん

ですけれども、あえて中学生に話をしてやってくれということでお願いしたことがありました

が、充分中学生も反応するし、若い時にそういう経験をすることが、今後に生きるというのも、

私も感じますので、中学生も含めてもらったらなと思います。

Ｆ委員：やっぱり、若い方との講座というのは、人材育成の部会でも色々とテーマが出ましたけれども、

若者たちの意見も聞きながら、双方向性のライブ感があるほうがいいんじゃないかなと。彼ら

が見ているものと我々が見ているものは違うので、我々からテーマを決めて、その中で動かす

よりも、出たとこ勝負でやった方が、結果的には実りが多いんじゃないかなと思います。

Ｇ委員：一つは、人材育成事業の方で、自治振興課がどういう意図かはわかりませんが、生涯学習の方

から、自治についてアプローチしていこうというのは、過去３年間やってきたので、田辺の明

日を考えるシンポジウムについては、あえて切り離すことはせず一緒にやった方がいいと思い

ます。それにつながるとすれば、地域シンポジウムの持ち方なんですけれども、先ほど事務局

からも説明いただいたように、私が全ての地域シンポジウムでお話をするということがかなわ

ないという中で、できれば、ここは議論が分かれるところなんですけれども、社会教育委員の

皆さんがご出身の地域に、あえて私が行くというパターンもあるし、その逆もあっていい。出

身の地域を委員さんが担当してもいいし、出身の委員さんだからこそやりにくいところがある

のであれば、外の人間を投入するというのも一つだと思うんです。私のスケジュールで15回が

縮小されるというのは、ちょっと申し訳ないところがあって、15回やるのであれば15回やる。

ただ、私は全部はいけないので、委員さんにも、あるいは公民館主事さんにもサポートしてい

ただきながら、回していく仕組みを考えられたらいいかなと思います。それは、最終的にはシ

ンポジウムの中身という話になると思うんですけれども、今日の段階では、まだ部会で揉み切

れていないので、４ページのこの内容、５年前と10年前と同じテーマなんですけれども、部会

の方で話している内容というのは、社会教育と自治をできれば融合するような形がいいんじゃ

いかなと思います。そんな話も勝手にさせていただいて、学社融合の田辺というのが、田辺の

教育施策のモデルですし、全国で５本の指にも入る取組みのところに、次の新しいテーマとし

ての、社会教育と自治の融合みたいなものが掲げられたらいいなと思っています。市長とも意

見交換する中で、市長からも、小規模多機能自治というけれども、今あるものに乗っかるとい

う形は、私はあまり好きじゃないという話をしたら、市長もそうだ、と仰っていました。田辺

らしい小規模多機能自治とか、田辺らしい自治、それは学社融合をベースにするとか、公民館

がベースになるだろうと思っているんですけれども、ここを表現する、何か新しい言葉も開発

できないかなと思っています。それもひっくるめて、田辺の自治と学習みたいな、そういう発

信ができたら、既存の流れとは違うし、既存の流れに乗ると、どうしても合わせていくことに

なるので、田辺らしさ、田辺の財産を最大限生かした学習と自治の融合みたいなのを、追求で

きたらいいよねというところでは、市長と概ね合意というか、そうだよねという話になったの

で、いきなりそういう話をできるかというと、工夫はいるのかもしれませんが、そこを目指し

ながらのシンポジウムにしたときに、じゃあどういう中身になるかなというのをまた部会で議

論できたらいいんじゃないかなと思います。

副議長：すごい基本的なことになるんですけれども、地域シンポジウムの資料の８番に書いている

「田辺市社会教育委員会議が運営を支援します」というのは、具体的にどんな支援になるんで

しょうか。社会教育委員が一緒に議論するんでしょうか。

　　Ｅ委員：昔のことなので、全部覚えているわけではありませんが、昔にやった方法は、最初に「公民

館の活動について」ということで、公民館の重要性の話を最初にして、その後にワークショッ

プ形式で、地域を今後どうやって変えていったらよいかということで、ファシリテーターを社

会教育委員がやりました。グループがいくつにも分かれるので、社会教育委員みんなでするわ

けじゃないんですけれど、私の場合は前もって、ファシリテーターとは、ということを話をし

て、こんな風に持っていきましょうか、ということで、当日実施したのを覚えています。だか

ら、前は20ヶ所で行ける人が行って、最初にミニ講演というか、公民館活動についての話で、

その後ワークショップという形でした。

　　Ｇ委員：社会教育委員がワークショップに参加するパターンもあったし、横で社会教育委員が座って、

ワークショップを横から見るというのも一つの方法ですね。人数が多いと、全体を見る人とい

うのがなかなかいないので、その役割を委員さんにもみていただいて、この地域にはこういう

意見が多いんだなというのを、見ていただく役割ですね。

副議長：議論を動かすとなると、なかなか皆さんプレッシャーを感じられるかと思いました。

　　Ｅ委員：前回の時は、資料と原稿が作ってあって、それに基づいて説明したので、誰が担当しても同

じようにできる仕組みがありました。Ｇ委員にお願いして全部を回ってもらうのは無理なので、

みんなで事前に勉強して、その資料をきちんと作っておいてもらったら、みんなで分担してや

れるかなと思っています。

　　事務局：この運営支援の役割というあたりは、柔軟に考えていったらいいと思いますし、これまでの

やり方も参考にしながら、また現状の公民館の、そういうことで今回からは、公民館の担当も

一緒に参加している状況というのはその辺の絡みもあるので参加させていただいております。

一旦このような提案で部会はしてますけども、公民館側では、このシンポジウム、当初の説明

の中でもさせていただいているのは、公民館としても、生涯学習の地域計画を作っていくとい

う役割があって、シンポジウムが地域での第一歩の話し合いの場にもなるという踏まえもある

ので、公民館としてのそこを踏まえた運営方法、各地域の状況にもよってくるんですけれども、

そういったことも一緒に相談に入りながら、個々の公民館の状況による部分もあるでしょうし、

そういったことをこれから部会でいっしょに参加しながら、相談していけたらと思っています。

ですのでいったんこういう提案ですけれども、回数も含め、ひょっとしたら公民館側は各地で

地域計画を作る観点から第一回の会議をしたいという観点も出るかもしれませんし、その辺を

また柔軟に相談して、そして、社会教育委員さんには、全体計画を、シンポジウムへ参加する

ことで、地域のニーズであったり、各地域の細かい話もですけれども、全体として計画へどう

反映するのがいいかなという部分で、参加いただけたらという考え方だと思うので、これから

公民館側の思いも、色んな観点で相談出来たらと思っております。

副議長：先ほどの中学校の話なんですけれども、先ほどの指摘を聞きながら思ったのは、中学生以上

と書いていながら、働きかけない限り、絶対中学生は来るわけないな、そこは今まで何もして

いなかったな、と思いました。かといって来いと言って来るわけがないし、高校生もよっぽど

関心がある子しかこないから学校へ行こうという話なんですね。去年私は、新庄中学校の弁当

開発に関わってきて、やっぱりすごい、こっちの想いとか大人の話を聞いてもらう、商売とは

どういうものだというのを知ってもらうのはものすごく大事だなと思いまして、反応も良かっ

たんですね。だから、その年代から関わっておくというのはすごく大事だなと思いながら、と

はいえどういう切り口で関わっていったらいいのかというのは全然わからないので、新庄中学

校は、たまたま学校側からキャリア教育、職場体験学習がまったく出来ていないので、なんと

かしたいという先生からの相談があって、ぐるっとまわって弁慶市にきたということで、たま

たま縁があったということなんですけれども、その時に、新庄中学校が、地域のハザードマッ

プを自分で作ってて、地域と関わってやっているのを見せてもらったので、ああいうのこそ、

社会教育の良い取り組みだなと思いましたね。やっぱりこういうのは、校長先生次第なんでし

ょうか。

　　Ｄ委員：私も新庄中学校にいたこともありまして、もともと新庄は津波被害もありましたので、そう

いう歴史もありますし、その中で学校として、地域の課題であるとか歴史であるとか文化であ

るとか、その中で学校も存在しているので、特に総合学習なんかも始まりましたので、地域に

目を向けて、地域とどういう風に関わっていくかということは大事な視点なので、校長次第と

いうわけではないんですけれども、職員と一緒に、子供たちの話も聞きながら、当然地域の

方々との関わりがなければ、できてこないので、そこらへんが大事かなと思っています。特に

今、SDGsという、持続可能性というところで、課題を自分事として捉えていくというキーワー

ドがあるので、自分事としてどう地域と向き合うかというのは大事なキーワードになるんだな

と、そこらへんは各学校の方でもそういう視点で進んできています。学校としては、地域連携

というのは、昔から繰り返しやってきていることなんです。それがもっと形を変えながら、今

コロナもあるんですけれども、その中で見つめ直しながら、地域だけでなくて、世界につなが

っているんだという視点も増えてきているので、そこらへんも進んでいるところです。ですか

ら、校長次第と言われれば、そういうところもあるんですけれども、それだけではなくて、や

っぱりみんなでやっているところです。

　　教育長：校長さんで明るい人もいれば、教職員や教務主任、研究主任で明るい人も色々といますが、

私は、中学生に対して色々とやってみたい。そういう気持ちを、色んなことをさせるがために、

まず、色んな人のお話を聞いたり、社会に出ていく上での考え方など、社会人の方から学びた

いという気持ちは、子供にもありますし、先生方にもあります。学校で教えてもらうものばか

りじゃなくて、自分たちが考えて行動を起こすということもしてみたいという気持ちが中学生

にも充分あると思うので、キャリア教育の視点で入ってもらうのもいいし、総合的な学習で、

地域と連携している専門の人が来てくれてもいいし、色んな切り口があります。学社融合を進

めてきて期間もかなり経ちますので、そういう形でかかわってもらったら、子供たちがしっか

り色んな考えを持って出ていくと思います。よろしくお願いしたいと思います。

　　　　副議長：中学校への出張講座は、良い事業であるのは間違いないんですが、学校と調整するのは事務局

が大分苦労されているので、要は、学校現場が忙しくて、そこにこっちから事業を持ち込んで

いって、困らせるのもどうかと思うので、だからこそ今度の計画の中に、学社融合の小規模多

機能自治みたいな切り口があれば、そういう機会は作りやすいのかなと思いました。

　　　　Ｅ委員：Ｄ委員の、中学生を対象に、という話は、要項に書いていながら、私たちも今まで考えていな

かったので、そういう考え方が大事だなと思ったのと、上富田にしても中学生の議会をやった

りしているので、そう考えると、中学生くらいからやっていってもいいんじゃないかなと思い

ました。私は中学生というともう58年前になるので、その時にどういうことを知りたかったの

か、どういうことを学びたかったのかというのが思い浮かばないので、今の中学生にとって必

要なこととか、そういう案があればまた部会の方にご意見いただければ、そのことについて話

をしていけたらと思うのでよろしくお願いします。

　　　　Ｈ委員：私なんかも小学校くらいの時に青年海外協力隊の話を聞いて、私の人生はこれだと思って、ず

っと協力隊に行きたいという想いだけで、中学、高校と、色んな調べものをしていたんですけ

れども、何かこう自分にとってのきっかけ、私にとってはそれはラジオとテレビだったんです

けれども、それを見てかっこいいなと思って、それを目指してずっと自分のアンテナを張って、

本があったらそういうのを読んで、ということをやっていたなということを考えると、それは

小学校だろうが中学校だろうが人それぞれだし、それによって自分の人生が、私の場合は海外

に目を向けるというライフワーク的な素地ができたのは、小中学生の頃の興味から、この生き

方かっこいいなと思ったそこだったので、そういった意味では、受講生対象は年齢関係なく、

興味を持つ場が与えられるというのが、まさに社会教育委員と生涯学習課でやっておられるよ

うな、人がそれぞれ、自分が興味を持つところ、それが人から後ろ指をさされるようなことで

ない限りは、色んな機会が与えられるのがいいなと思うので、間口が広いということ、またタ

ーゲットを広げるということには非常に賛同を覚えます。

　　　　　議長：他にご意見がなければ、各部会で検討いただくということと、全体の会議で報告させていただ

いて、承認いただき、またご意見をいただくという方向でよろしいでしょうか。なかなかこれ

から忙しくなると思いますけれども、委員の皆さん、よろしくお願いします。協議については

以上でよろしいでしょうか。他にご意見ございませんか。

　　　　教育長：一つだけよろしいでしょうか。先ほどのアンケートを、今丁寧に見させていただいていたんで

すけれども、色んな項目を作られているなという風に思うんですけれども、一般質問でもよく

出る時があるんですが、ジェンダー平等を実現するという、ジェンダーを意識して学ぶという

点で、あまりジェンダーという言葉がこの中にはないなという風に感じたので、最近は特に言

われていますので、アンケートの中のどの項目にふさわしいかというのは検討しなければいけ

ないと思うんですけれども、社会教育の分野においても、ジェンダー平等を実現していくとい

う視点に立ったアンケートの項目があった方がいいんじゃないかなという気がしたんですけれ

ども、それは部会の方で一度話をしていただけたらなという風に思います。

　　　　　議長：そうしましたら、アンケートについては、ジェンダーについて、それからコロナ禍の影響につ

いて盛り込んだ方が良いんじゃないかということをご意見いただきましたので、計画策定部会

の皆様はアンケートに目を通していただいて、そういった視点が入るような形で各々ご意見い

ただけたらと思います。期日は７月19日までですので、よろしくお願いいたします。

５．その他

・令和３年度近畿地区社会教育研究大会（大阪大会）開催要項を配付した。当該大会における第４分科会「地

域づくり」において、田辺市まちづくり市民カレッジ＋（プラス）の取組みを発表予定。出席者は、発表者と

して尾崎副議長、助言者として西川委員、松場議長、事務局の計４名。例年、希望者は全員参加しているが、

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は出席者が制限される。

　・近藤委員より、田辺市総合計画審議会第１回審議会への参加報告と、会議資料の提供があった。

６．閉会　副議長挨拶